

Lenovo はビジネスに Windows 10 Pro をお勧めします

Smarter
technology
for all

Lenovo

ハイブリッドワーク 環境ガイド

The Environmental Guide for Hybrid Work



 Windows 10

Windows 10 Pro デバイスで一歩先に。

はじめに

あらゆる場所が働く場所になる ハイブリッドワーク時代の幕開け

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、日本の働き方は大きな変化を遂げました。その最たる例が感染症蔓延防止のための緊急対応としてのテレワークの普及浸透です。テクノロジーの進歩と共に、これまで遠い未来の文脈で語られてきた場所を問わない働き方が現実のものとなりました。

そして今日、日本社会は将来の働き方を選択する岐路に立っています。数年先を見越した新しい働き方のあるべき姿の模索が、さまざまな企業や組織で進められています。

2020年～2021年に私たちが得た大きな学びは、テクノロジーの力を活用することで、一人ひとりが最適な勤務環境を自ら選ぶことは可能、ということでした。

これからの働き方を占う上で重要なキーワードが、このガイドのタイトルにもなっている「ハイブリッドワーク」です。ハイブリッドワークとは、在宅勤務だけでもなく、事業所勤務だけでもない、柔軟性の高い働き方のことを意味します。

ハイブリッドワーク化する世界においては、事業所の勤務環境を整える延長線上で、従業員の自宅やサードプレイスなどの勤務時にも最適な環境を提供する責務が企業や組織に生じます。そこで、このガイドでは、シーン別にイメージしやすい写真と共に、それぞれのワークスペースでどのような環境整備が必要なのか、具体的にご案内しています。勤務環境の「選択肢」を検討する際に、ツール面の整備にも目を向けるひとつのきっかけとして、ご活用いただけますと幸いです。

レノボ・ジャパン合同会社

ハイブリッドワークの本質 … 4

働く場所の選択肢をポートフォリオで考える … 5

Work at HOME ホームオフィス … 6

Work at HOME リビング … 7

Work at 3rd Place コワーキングスペース … 8

Work at 3rd Place カフェ … 9

Work at OFFICE フリーアドレス … 10

Work at OFFICE 固定席 … 11

Work at OFFICE コラボレーションスペース … 12

おわりに … 13

ハイブリッドワークの本質

従業員一人ひとりが最適な勤務環境を能動的に選択する コロナ禍を超えて「不可逆」となった働き方の変化

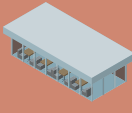
新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のための手段としてテレワークが持ち出されてから、多くの企業や組織にとって、テレワーク＝在宅勤務という状態が続いています。しかしながら、本質的には必ずしも在宅勤務である必要はなく、コワーキングスペースやサテライトオフィスなどのサードプレイスでの勤務も広義のテレワークに含まれます。

一方、事業所に目を向けてみると、数年前より「ABW」という考え方が少しずつ浸透してきました。ABWとはActivity Based Working（アクティビティ・ベースド・ワーキング）の略で、業務内容に応じて臨機応変に働く環境を選ぶことができる「選択肢」を

事業所内に複数設けることで、生産性を高めることが可能となる、というコンセプトです。

本来、ABWとは時間と場所を従業員が能動的に選択する働き方であり、本質的には事業所内だけに留まるものではありません。在宅勤務やサードプレイスも含めた「選択肢」を広く捉えることが、在宅勤務だけでもない、事業所勤務だけでもない、ハイブリッドワーク時代を捉える上で重要です。また、ハイブリッドワークの在り方に万人向けの解は存在せず、ひとつの企業や組織で、同じチームの中であつたとしても従業員一人ひとりが異なる勤務パターンで働くことになります。

ハイブリッドワークの適用例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
 Aさん 企画チーム	 在宅勤務	 事業所	 コワーキング スペース	 在宅勤務	 サテライト オフィス
 Bさん 企画チーム	 在宅勤務	 事業所	 在宅勤務	 在宅勤務	 在宅勤務
 Cさん 開発チーム	 事業所	 事業所	 在宅勤務	 事業所	 事業所

すなわち、性善説に基づいた勤務場所の「選択肢」の提供こそがハイブリッドワークの肝であり、言い換えると、ハイブリッドワークの本質とは、2019年までの世界では一般的とは言えなかった「一人ひとりが自ら働く環境を選択する」ことにあります。この不可逆となった潮流に対応するために、企業のIT部門や総務部門、従来事

業所だけを対象として捉えていた「勤務環境」の整備を、従業員一人ひとりの自宅やサードプレイスでの勤務などにも拡大して適用して、それぞれが最高の生産性を発揮するための「選択肢」を用意する必要があるのです。

働く場所の選択肢を ポートフォリオで考える

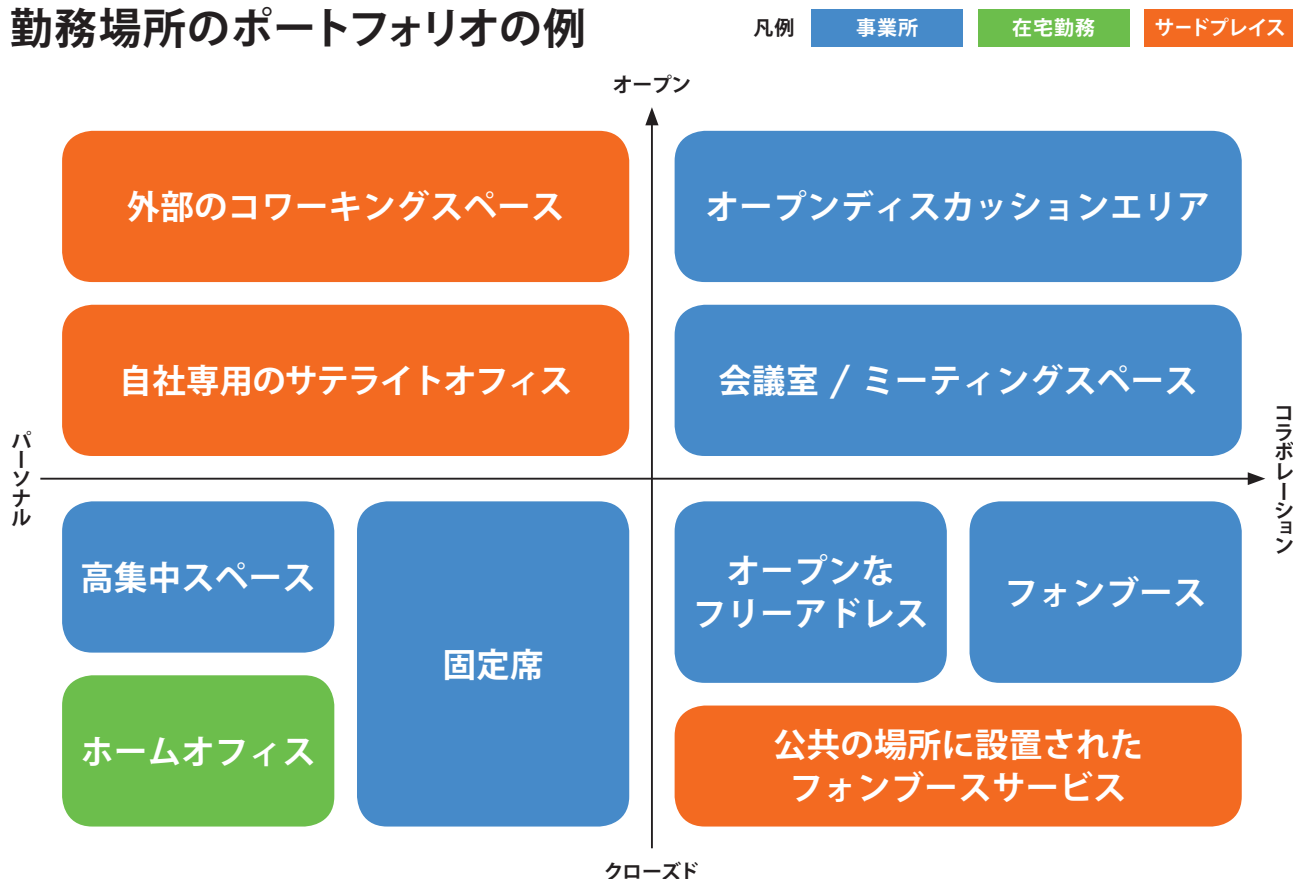
事業所だけが設備投資の対象となる時代の終焉

企業や組織がハイブリッドワークを実践するにあたってまず検討が必要なポイントが、勤務場所の「選択肢」です。過去数十年以上にわたって、ほとんどの企業や組織において「事業所」が唯一の勤務場所として設けられていました。ハイブリッドワーク化する世界においては、事業所はもちろんのこと、自宅、コワーキングスペース、サテライトオフィスなどの勤務場所を網羅的に検討することが求められます。この中で重要なポイントは、働く場所の最適解は従業員一人ひとりにとって異なるという当たり前の前提に立つことであり、企業や組織にとっては「選択肢」の幅を広げることが必要となる、と

いう点です。この考え方を実践するためには、現在、そしてこれから用意すべき勤務場所の幅をポートフォリオとして可視化し、従業員のニーズを探りながら「選択肢」を確保していく必要があります。

以下のチャートは、ハイブリッドワークに適応した企業や組織を例としたポートフォリオ図の一例です。自社の現状把握のためにも、最初のステップとして用意されている勤務場所の選択肢をポートフォリオ図上に配置、その後「充足できていないエリアはどの象限にあるのか」を検討してみましょう。

勤務場所のポートフォリオの例



一方で、場所を問わずに最高の生産性を従業員が発揮するためには、適切なテクノロジーやツールの活用が不可欠です。このツールについても、一人ひとりにとって働き方の最適解が異なる以上、企業や組織としては「選択肢」を用意して必要に応じて選択できるようにする、またはその環境を事前に整えることが必要です。

次ページ以降で、それぞれのワークプレイスに最適な環境選定のかたちをご提案します。

ホームオフィス

自分好みにカスタマイズできる 環境だからこそ、生産性にフォーカスする

定着が進みつつあるテレワーク、自宅はそのベースとして存在する重要なワークスペースであるがゆえに、オフィスにおいて企業や組織が環境を整備するのと同じレベルで、在宅勤務の割合が高い働き方であればそれ以上に、最高の生産性を発揮できる場所として捉えて投資する価値のある場所です。本項では、専用のワークスペースを確保できる場合を想定したテレワーク環境のベストプラクティスをご紹介します。

ディスプレイ

作業効率の観点から、外部ディスプレイも含めたマルチディスプレイ環境での利用を推奨します。ノートPCの内蔵ディスプレイを机上で使用すると、目線を下げる必要があるためです。140cm以上のデスク横幅を確保できる場合、可能であれば外部ディスプレイで2面を配置することをおすすめします。健康維持の観点から40cmの視距離を確保するように配置を行ってください。外部ディスプレイのサイズはデスクスペースによって最適解が異なりますが、デスク横幅140cm以上の場合27インチ2面を、120cm以上の場合27インチ1面、100cmの場合23.8インチ1面が基準となります。

カメラ

オンライン会議はハイブリッドワークと切っても切り離せない存在です。通話相手に対して「まるで目の前に居るかのような」体験を提供してスムーズなリモートコラボレーションを行うため、目線と同じ高さ、もしくは少し上に独立したウェブカメラの設置を推奨します。モデルの選定に際してはオートフォーカス、自動的な画質調整機能を有する機種をおすすめします。



Lenovo ワイヤレス VoIP スピーカーフォン／ThinkPad トラックポイント キーボード II／Lenovo Go USB Type-C ワイヤレス マルチデバイスマウス／ThinkPad X1 アクティブ ノイズキャンセレーションヘッドホン／140cm想定:ThinkVision P27h-20×2, ThinkPad Thunderbolt 3 ドック 2 + ThinkPad T14s／100cm想定:ThinkVision E24-20 + ThinkPad T14s

キーボードとマウス

姿勢の観点で作業者の目の前に独立したキーボードとマウスを用意いただくことをおすすめします。身体を中心線から見て正面に配置を行い、マウスの可動スペースを十分に確保してください。ワイヤレス設計のキーボードやマウスを使用することで、より柔軟な配置が可能となります。

ドッキングステーション / USB Type-C接続のディスプレイ内蔵ポート

ハイブリッドワーク環境においては、自宅内だけでなく、事業所やコワーキングスペースも含めて、ノートPCを持参した上での移動が多く発生することが想定されます。その際に、周辺機器の抜き差しに費やす時間の削減、またケーブルマネジメントの観点で、お使いのノートPCがUSB Type-Cに対応している場合、ドッキングステーション、もしくはUSB Type-C接続のディスプレイ経由で周辺機器を一括して接続することを推奨します。

オーディオ

クローズドな“個室”をホームオフィスとして設ける場合、ヘッドセット疲れを未然に防ぐ観点で独立したスピーカーマイクの使用を推奨します。PCによっては、高音質なスピーカーやマイクを本体に内蔵している場合もありますので、テスト通話でご確認ください。

リビング

最小のスペースで、 最高の生産性を発揮するための工夫

Lenovo

自宅の間取りや環境、ライフステージによっては、
必ずしも在宅勤務用の個室や専用スペースを用意することが難しく、リビングテーブルなどで
業務に従事するケースも多くあるでしょう。その場合でも、設置と撤去が容易な移動式のデバイスを用いることで、限られたスペースにおいても事業所と同等、もしくはそれ以上の生産性を
発揮できる環境を少しの工夫と投資で用意することが可能です。

ディスプレイ

作業効率の観点から、外部ディスプレイも含めたマルチディスプレイ環境での利用を推奨します。限られたスペースを有効活用するために、ノートPC本体のディスプレイに加えて、14インチ～15インチの可搬式のモバイルディスプレイを使用してください。モバイルディスプレイにはHDMI接続のものとUSB Type-C接続が可能なものの2種類が存在していますが、Display Out + 電源供給機能付きのUSB Type-CポートがノートPCに内蔵されている場合、ケーブル管理の観点からUSB Type-C接続のものを使用することをおすすめします。

オーディオ

ヘッドセットの使用が推奨されます。リビングなどの共用スペースで勤務を行う場合、環境音など外部ノイズが入りやすい傾向にありますので、指向性のマイクにノイズキャンセリング機能を持つヘッドセットの使用を推奨します。また、PCやオンライン会議アプリケーションによっては、ソフトウェア側でノイズ低減を行う機能を有している場合がありますので、設定をご確認ください。

キーボードとマウス

スペースに限りがあるため、ノートPCに内蔵されたキーボードを使用することが一般的です。テーブルの奥行きを確保できる場合は、ディスプレイスタンド、場合によっては本を積み重ねた上に設置するなどの工夫で、視線の高さとディスプレイの高さを合わせた上で、外付けのキーボードを使用し、無理のない体勢となるように工夫することが効果的です。

カメラ

PC本体に内蔵されたWebカメラをそのまま使用することが一般的です。Webカメラの映りは部屋の明るさや光の入り加減に大きく左右されます。部屋の明るさを確保した上で、直射日光を直接浴びない角度でPCを使用することで、自然で明るい映り方になります。



ThinkVision M14t + ThinkPad T14s / ThinkPad X1 アクティブ ノイズキャンセレーションヘッドホン

コワーキングスペース

移動式のワークスペースで実現する 場所を問わない働き方

ハイブリッドワーク化した世界では、在宅勤務＝テレワークではありません。

日々の業務内容やその日の気分、場合によっては自宅でのテレワークが難しい場合など、さまざまなシーンで事業所でもない、自宅でもない、第三のワークスペースとなるサードプレイスでの勤務が想定されます。サードプレイスの選択肢のひとつがコワーキングスペースであり、環境面への投資でシェアードスペースを「自分だけのワークスペース」として仕立てましょう。

ディスプレイ

不特定多数が入り出りするスペースであるがゆえに、ノートPC本体に必ずプライバシーフィルターを装着することがセキュリティの観点で重要です。最近ではプライバシーフィルター内蔵式のディスプレイを有するノートPCも登場しています。作業効率の観点では、コワーキングスペース利用時においてもマルチディスプレイ環境を用意することが推奨されます。コワーキングスペース側で外部ディスプレイの貸し出しを行っているケースも増えてきていますので、ご確認ください。貸し出しを行っていない場合は、モバイルディスプレイの利用をご検討ください。可搬性の観点で14インチのモバイルディスプレイの利用をおすすめします。

オーディオ

コワーキングスペースによってはオンライン会議（通話）可能なスペースに制約が設けられているため、注意が必要です。不特定多数が同じ空間で働くがゆえに、マイク側のノイズキャンセリング機能に加えて、イヤホン側のノイズキャンセリング機能を持つヘッドセットの使用をおすすめします。イヤホン側のノイズキャンセリング機能を使用することで、オンライン会議時以外にも、集中して勤務するための有効なツールとして使用することが可能です。



ThinkVision M14t + ThinkPad X1 Nano (プライバシーフィルター装着)
ThinkPad X1 アクティブ ノイズキャンセレーションヘッドホン

キーボードとマウス

スペースに限りがあるため、ノートPCに内蔵されたキーボードやタッチパッド、TrackPointを使用することが一般的です。できるだけ身体の中心線とキーボードが一直線になるように配置し、無理のない姿勢でタイピングを行うよう心掛けてください。

カメラ

フォンブースのような暗所からオンライン会議に入る場合、カメラの映りが十分に明るいかどうかを事前に確認することが必要です。オンライン会議アプリケーションによっては、暗所向けに自動で画質をチューニングする設定を持つ場合がありますので、お使いのソフトウェアの設定をご確認ください。

カフェ

隙間時間を有効に活用

特に営業職など、さまざまな場所を移動することが日常的な業務の場合、隙間時間を有効活用する、という観点で、カフェなどのスペースを一時的な勤務スペースとして使用場合があります。公共性の高いスペースであることから、ショルダーハッキング(のぞき見)をはじめとするセキュリティリスクに留意する必要があります。

ディスプレイ

パブリックスペースであるがゆえに、ノートPC本体には必ずプライバシーフィルターを装着することがセキュリティの観点で必須となります。プライバシーフィルターを装着しない、もしくはプライバシーフィルター機能を内蔵したノートPCを使用しない場合、ショルダーハッキング(背後から機密情報を盗み見られること)のリスクが飛躍的に高まります。最近では、背後からの視線をカメラで検知してアラートを出す機能を持つノートPCも出てきています。このような機能を持つノートPCの場合、機能を有効化してご利用ください。

カメラ

パブリックスペースからオンライン会議に参加する場合、背景の映り込みには十分に注意する必要があります。幸いなことに、最近では多くのオンライン会議アプリケーションで仮想背景、もしくは背景のぼかしがサポートされるようになっています。アプリケーション側の機能を最大限活用し、最適な映像を通話相手に届けられるよう設定を実施ください。

キーボードとマウス

スペースに限りがあるため、ノートPCに内蔵されたキーボードやタッチパッド、TrackPointを使用することが一般的です。できるだけ身体を中心線とキーボードが一直線になるように配置し、無理のない姿勢でタイピングを行うよう心掛けてください。

オーディオ

BGMや雑踏の音などが多い環境であるがゆえに、マイク側のノイズキャンセリング機能が非常に重要となります。ヘッドセットの持つノイズキャンセリング機能を用いる他、ノートPCによってはDolby Voiceをはじめとするソフトウェアの力でノイズを低減する仕組みが提供されている場合もあります。重要な点は、環境音に左右されることなく、クリアに声を通話相手に届けることです。オンライン会議アプリケーションに組み込まれたテスト通話機能を用いて、事前に音質を確認することをおすすめします。



ThinkPad X1 Fold / ThinkPad X1 アクティブ ノイズキャンセレーションヘッドホン

フリーアドレス

業務内容に合わせた ワークスペースの選択を、事業所でも

これからの事業所の在り方を考える上で、
床面積縮小の観点でフリーアドレス化がひとつのトレンドになっていますが、
単純なフリーアドレス化は、固定席よりも生産性を低下させる結果につながりかねません。
ハイブリッドワーク時代において、事業所は数ある働く場所の中での「選択肢のひとつ」に過ぎません。
その前提で、明確な目的意識を持ったワークプレイスの構築が求められています。

オープンワークスペース

偶発的なコラボレーションの効果も期待されるスペースです。パーティションを取り払って隣の席や向かいの席との境界線を敢えて曖昧なかたちとすることで、ワークスペースでありながらコミュニケーションスペースとしての役割も担います。クリーンな環境を維持するため、ケーブルの露出を最小化し、生産性の観点では在宅勤務と同じくマルチディスプレイ環境を用意することを推奨します。その際にディスプレイサイズや枚数に複数のパターンを用意することで、業務内容に合わせた柔軟な選択肢を従業員に提供することが可能です。周辺機器の抜き差しが多い場合には、手元にポートを配置可能なドッキングステーションの併用もご検討ください。



ThinkVision P27h-20 / ThinkPad T14s /
ThinkSmart View for Microsoft Teams

ソロワークスペース

事業所の中にも集中スペースを用意することで、“作業にフォーカス”するための環境を用意することが可能です。ソロワーク用什器の設計の関係で外部ディスプレイの設置が難しい場合もありますが、設置が可能な場合には、在宅勤務向けの解説と同じ基準で外部ディスプレイを標準で設置されることをおすすめします。



ThinkPad T14s / ThinkPad X1 アクティブ ノイズキャンセレーションヘッドホン

コラボレーションエリアの配置もお忘れなく！

ハイブリッドワークにおいて、事業所は偶発的なコラボレーションのための重要な拠点となります。この機能を果たすために、くつろぎながらブレインストーミングができるようなオープンな場所としてコラボレーションエリアを設けることが効果的です。



固定席

事業所への出勤を基本とする 従業員に向けた個人の指定席

Lenovo

人ごとの最適化(カスタマイズ)の容易性や着席保障といった特徴を持つ

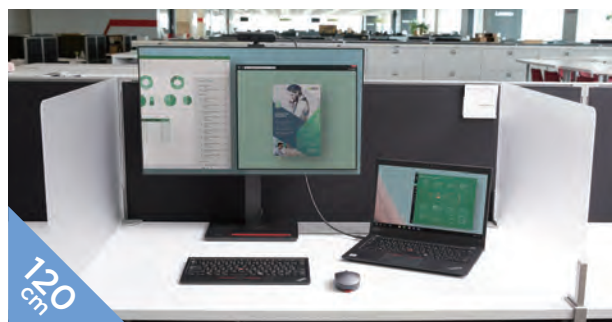
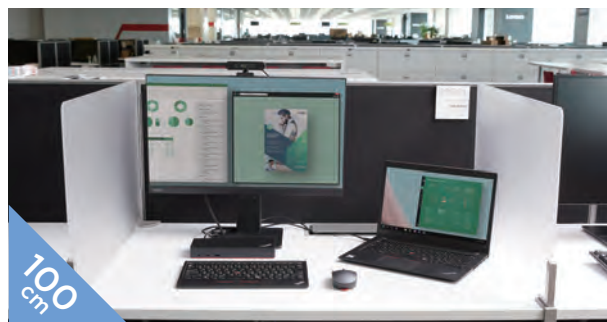
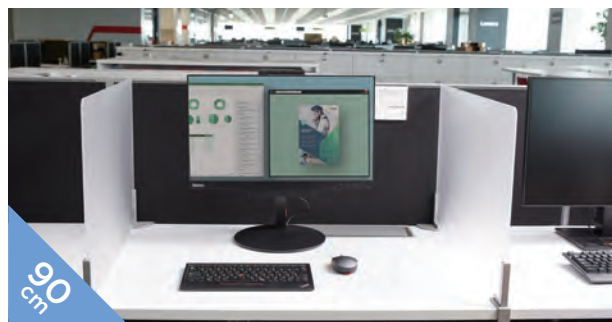
固定席はこれからも事業所において重要な選択肢です。

特定の従業員をフリーアドレスの対象とするのか、固定席を割り当てるかどうかは、
業務内容を精査の上、明確なポリシーのもとで判断する必要があります。

固定席におけるデスク幅ごとの推奨ディスプレイサイズ

デスク幅	100cm未満	100cm～	120cm～	140cm～
外部ディスプレイ	21.5インチ × 1	23.8インチ × 1	27インチ × 1	27インチ × 2
解像度推奨値	フルHD	QHD 以上	QHD 以上	QHD 以上

デスクサイズごとの推奨構成



ThinkPadトラックポイント キーボード II / Lenovo Go USB Type-C ワイヤレス マルチデバイスマウス / 90cm 想定: ThinkCentre Tiny-in-One 22 / 100cm 想定: ThinkPad T14s / Lenovo 500 Full HD Windows Hello対応 Webカメラ / 120cm 想定: ThinkVision P27h-20 / Lenovo 500 Full HD Windows Hello対応 Webカメラ / 140cm 想定: ThinkVision P27h-20×2 / ThinkPad T14s / Lenovo 500 Full HD Windows Hello対応 Webカメラ

コラボレーションスペース

事業所におけるハイブリッドワーク実現の鍵は、 リモートコラボレーションへの最適化

ハイブリッドワークでは、「全員が同じ会議室に集まる」ことが当たり前だった常識が過去のものになります。すなわち、毎日一定人数が事業所で勤務しており、同時に一定人数がテレワークで勤務する中で、さまざまな場所同士を「テクノロジーの力でつなげる」ことが求められます。PCからオンライン会議に接続することも可能ですが、専用のソリューションを使用することで、誰でも直感的に、高い映像・音声品質でつながることが可能となります。

会議室

数十年以上にわたってディスプレイやプロジェクターの導入以外は大きな変化のなかった会議室にも、ハイブリッドワークに合わせて「常に遠隔地からの参加者が存在する」ことを前提としたインフラの導入が求められます。ワンタップでオンライン会議に参加が可能で、接続後の映像・音声品質についても会議室での利用に最適化された専用ソリューションを導入することで、リテラシーレベルを問わず、同じクオリティでオンライン会議に参加することができる時代です。



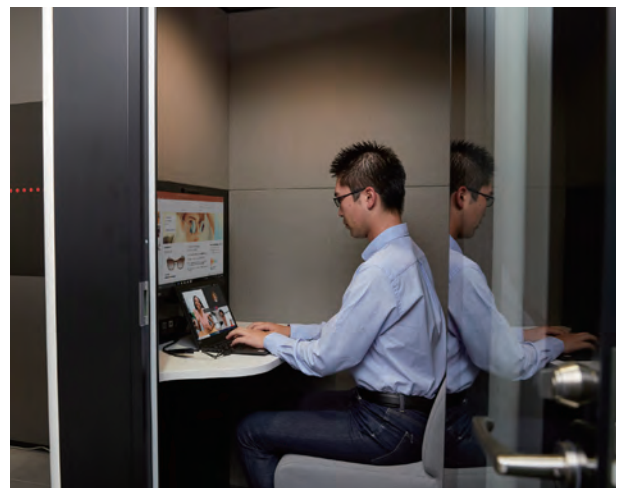
ThinkSmart Hub / ThinkSmart Cam



ThinkSmart Core Full Room Kit

個人向けフォンブース

企業や組織によっては執務スペースでのオンライン会議への参加が、機密情報保持の観点、また周囲への影響の観点から好ましくない場合があります。そんな課題を解決する個人用の集中ブースの導入が進んでいます。かつて、街中に設置されていた電話ブースには必ず電話機が設置され、誰でも直感的に使うことができました。今日のモダンな個人向けフォンブースにおいても、ひとりでの利用を前提としたオンライン会議専用端末が利用できます。これにより、誰でも直感的に高品質な会議を実現することが可能です。



テレキューブ

おわりに

環境面への投資で ハイブリッドワークを持続可能に

「設備投資」という言葉は、長らく事業所に対して使われてきました。ハイブリッドワーク化する世界においては、その対象を事業所内のみに留めることなく、企業や組織の責任において従業員の自宅やサードプレイスにまで広げることが求められます。

その際、従業員一人ひとりの勤務内容やライフステージ、場合によっては家の間取りなども考慮に入れながら、本ガイドを参考に「選択肢」を用意することをぜひご検討ください。

一方で、事業所そのものについても在り方が大きく変容しようとしています。これまで存在意義を深く考えることなく存在していたオフィスは、ハイブリッドワーク化する世界においては「従業員に選ばれる」

ためにはどのような場所であるべきなのか、従業員のニーズを深く探りながら検討する必要があります。

そのヒントが「ABW」であり、サードプレイスや自宅から勤務する従業員も含めたコラボレーションの場所としての会議室の在り方の見直しなのです。

ハイブリッドワークの定着には多くのハードルがありますが、環境面への投資は、その障壁を下げる重要なファクターです。

本ガイドをきっかけとして、「働く場所」とはどうあるべきなのか、「選択肢」を企業や組織としてどう用意していくべきなのか、そんな議論のきっかけとなれば幸いです。



Lenovo はビジネスに Windows 10 Pro をお勧めします

それぞれの働き方に最適な環境を



在宅勤務や事業所内の
移動を中心とした働き方

Home
Worker



ThinkPad X1 EXTREME



ThinkPad X1

ThinkPad X1

ThinkPad X1 YOGA



ThinkPad T14s



ThinkPad X13 /
X13 Yoga

ThinkPad T14



ThinkPad

ThinkPad L13 / L13 Yoga



ThinkPad L14



Windows 10 Pro デバイスで一步先に。

 Windows 10

“One Fits All” が機能しない今日の世界だからこそ、
ひとりひとりのワークスタイルに合わせたデバイスを

日々最適な場所を能動的に
選びながら柔軟に勤務

Hybrid
teleworker



事業所の固定席での
利用がメイン

Internal
Worker

NANO



TITANIUM



CARBON



X12 Detachable



ThinkCentre



ThinkPad T15



ThinkPad L15



13型ハイパフォーマンスモバイルノートPC

ThinkPad X1 Nano



14型ハイパフォーマンスモバイルノートPC

ThinkPad X1 Carbon Gen 9

Lenovo

●このカタログで使用されている製品の写真は、出荷時のものと一部異なる場合があります。また、仕様は事前の予告なしに変更する場合があります。●表示画面および印刷帳票の出力例のうち、特に断り書きのない出力例のデータ部分はすべて架空のものです。●画面はめ込み合成で実際の表示とは異なります。●このカタログの情報は2021年10月現在のものです。最新の情報は、弊社ホームページをご覧ください。●製品、サービス等詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。●当カタログ記載の製品にプリインストールあるいは添付されているソフトウェア製品につきましては、その梱包方法および内容物に関し、市販されているものとは異なる場合があります。



レノボ・ジャパン合同会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

<https://www.lenovo.com/jp>